乳幼児の頭部外傷の防止

1. こどもに多い頭部外傷

頭のけがは、こどもの外傷受診の中で最も頻度の高いものです。頭の中の出血や脳の損傷が認められるケースが一定数存在します。まれではありますが、緊急の医療対応が必要となるケースも報告されています。

頭の中に出血がなくても、頭を打った衝撃により、こどもは嘔吐（おうと）しやすい傾向があります。また、元気がなくなったり、機嫌が悪くなったりすることもありますので、いつもと様子が違う場合には病院を受診しましょう。



2. 頭部外傷の予防のポイント

こどもは頭部が大きく運動機能も未発達のため、転倒や頭部打撲を想定し、外傷の影響が最小限となる環境を整備しましょう。

予防のポイント

❶外で遊ぶときは帽子を着用させる。
❷物や家具の配置に気を付け、出っ張り、転びやすい環境を改善する。
❸室内の床材、園庭の地面素材、特に遊具の周囲には柔らかい素材を選ぶ。

3. 頭部外傷後のこどもの観察

受傷時の頭部へのエネルギーの大きさ（衝撃強度）も受診の目安となります。高所からの墜落、高速物体（振り回した棒、勢いのついたぶらんこ等）との衝突など高いエネルギーによる頭部外傷の場合は、意識障害や、危険な症状がなくても病院を受診します。また、乳児から1歳頃までは症状の訴えができないので、判断が難しくなります。心配な場合には受診しましょう。頭部外傷後、約4～6時間は注意深く観察する時間と考えられています。それ以降急に状態が悪化することはほぼないとされていますが、大事をとって当日は継続して注意を払うようにします。

4. 重症の頭部外傷の場合

意識障害がある場合には、直ちに119番通報します。同時に、呼吸をしているか確認します。呼吸をしていない、しゃくりあげるような呼吸、不規則な呼吸、または、よく分からない場合には、直ちに心肺蘇生を開始します。呼吸が再開しなければ、救急隊の到着まで継続します。

重症の場合には、受傷の直後には呼吸をしていても、時間が経ってから呼吸停止となる可能性があることを知っている必要があります。

呼吸停止の理由

❶重症の頭部外傷では、脳の呼吸調節が障害されて、呼吸が停止することがあります。
❷直後に呼吸があっても、脳が徐々に腫れてきて呼吸調節が障害され、呼吸が弱くなったり、呼吸停止になったりすることがあります。

呼吸の確認方法

❶こどもの鼻と口の近くに自分の顔を寄せて、息が感じられるかを確認します。
❷こどもの胸を見て呼吸の動きがあるか確認します。

【参考文献】富田慶一、植松悟子「1. 小児の外因の疫学」、鉄原健一編著『こどもの外科救急』日本医事新報社、2019年

乳幼児の歯・口の外傷の防止

乳幼児の歯・口の外傷は、事故事例としては多くはないですが、食べる機能を一時的にも失うことになり、また唇や顔の外傷を伴うこともあって、可能な限り環境要因についての配慮が必要です。日本スポーツ振興センターの学校等事故事例検索データベースでは、幼稚園の歯牙障害事例として、5歳児で「雲ていから落下した」事故や「鉄棒でほかのこどもの足が当たった」事故があります。乳幼児では、頭が大きく重いことから転倒する事故が多くあり、中には歯ブラシをくわえたまま転倒して重傷事故になった例もあります。東京消防庁によると、「平成29年から令和3年までの5年間に、5歳以下の乳幼児が歯みがき中に歯ブラシで受傷した事故により、195人が救急搬送されています。」とのことで、歯の外傷だけではないことも理解しておく必要があります。一般的には、下記のような注意が必要です。

歯・口のけがを防ぐための10か条



日頃からの管理と指導

❶朝、授業や活動の途中・前後に、健康観察をする。
❷食事、運動、休養・睡眠の調和の取れた生活と敏捷性や調整能力等の基礎的な体力つくりに努める。
❸施設・設備や用具、教室や運動場等の安全点検を行い、環境を安全に整える。
❹活動場所や内容、運動種目等に応じた安全対策をする。
❺危険な行動を見つけたら、改善のための指導をする。
❻安全な活動や用具等の使用に関するルールを決め、お互いに守るようにさせる。

危険を予測・回避するために

❼事故の事例や「ヒヤリ・ハット」した場面等を題材に、危険予測・回避の学習をする。
❽体の接触があったり、ボールやバット・ラケット等を使用したりする場合には、お互いにけがをしないように具体的な約束をしておく。

けがをしてしまったら

❾けがをしたところを清潔にし、応急手当をする。
❿抜けた（欠けた）歯を拾って、速やかに歯科医を受診する。

乳幼児の歯・口の外傷予防のポイント・原則



●口に何かをくわえたまま遊ばせない。
●歯が抜けてしまったときには、乳歯であっても「保存液」あるいは「牛乳」に入れて歯科医院を受診する。口の中には入れたままにしない。
●歯が折れた場合には破折片も持参する。
●遊具の近くでは周囲に気を配る。
●外傷は上の前歯に集中する傾向がある。

心停止
誤嚥・窒息
アナフィラキシー
熱中症
頭部外傷
歯・口の外傷
眼の外傷
手指の外傷